

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2026年 6月号 No.417

森のおくりもの 6

ヤマボウシ（ミズキ科）



しっとりした空気の中で、みずみずしい緑が重なるこの季節。見上げれば薄暗い木々の間に白い花が咲いています。梅雨に咲く花はその白さが輝いて清楚に森を彩ってくれます。潤いを増した林の中をゆっくり歩くと、普段と普段と違う川の姿や、キノコや地衣類など雨季ならではの観察が楽しめます。水無月の森で、素敵な出会いがありますように。 【館長：濱中郁子】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『木を見て森を見ず（きをみてもりをみず）』

最近が多様性の時代ということで、趣味なども多様な楽しみ方があります。自然の楽しみ方も同じで、自分なりの方法で楽しんでいけばいいのですが、いろいろあり過ぎてどうしたらいいかわからない方もいるかもしれません。

現代に生きる人は、情報過多で脳が疲れているとのこと。情報が多過ぎると必要な情報までもが目に入らなくなり、かえって正しい判断や行動ができなくなるということです。そんな状況を表す言葉が「木を見て森を見ず」です。「目の前の細かすぎる情報にとらわれ過ぎて、全体像や本質を見失ってしまうこと。情報過多で溺れている状態」をあらわす言葉です。元々は英語の慣用句で「目の先の小さなことや部分的なことに気を取られ、物事の全体像や本質を見失ってしまうこと」のたとえ。視野が狭くなっている状態を戒める教訓」なのですが、最近では、情報化社会の現代にマッチさせて使われているようです。

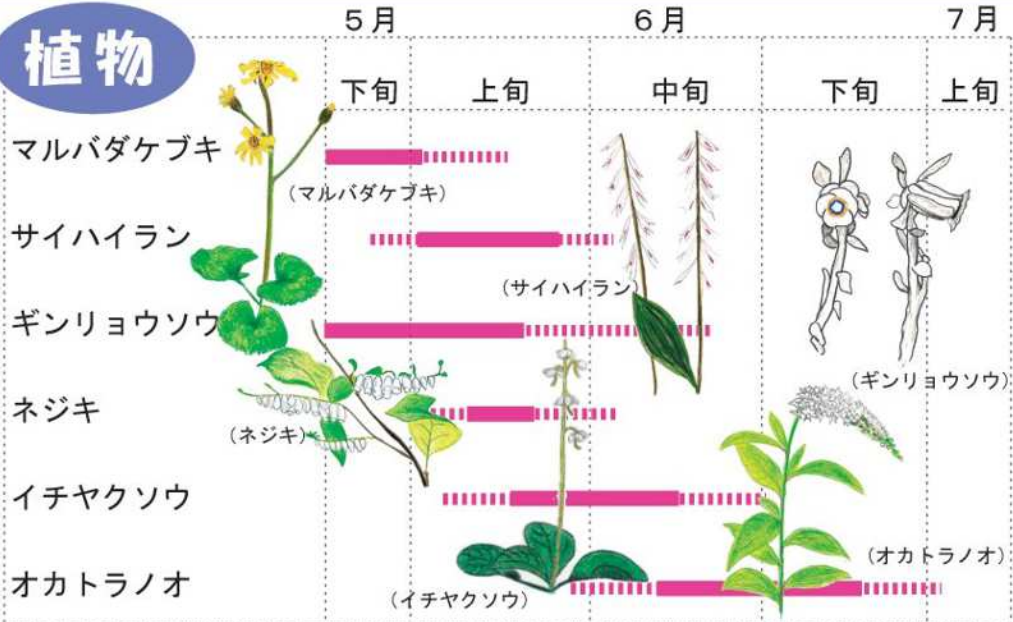
自然の中での楽しみ方は、人によって様々で価値観や身体能力の違いがあり、他人とは同じ感覚にはなれないので、自分の感じ方とは違うと認識することが大切です。例えば音を感知する聴覚は、人間の能力で聞こえる音の周波数域が決まっていますが、年齢や状態で聞こえ方に個人差があります。同じかどうかを比べることもできませんし、今は聞こえる音が、加齢で聞こえなくなっても気づくことができません。でも、脳が認識できないだけで音としては聞こえていなくても振動で体に認識されているそうです。自然界の音には人間が聴き取れない超高周波音が含まれていて、心身に心地よくストレス軽減の効果が期待できます。疲れた現代人の脳には最適です。

花や珍しいものだけに注目していると、自然が奏でる音に気づいてないかもしれません。目を閉じ意識を向けると鳥やカエルの声、葉が擦れる音などが聴こえてきて、心が癒されるのでおすすめです。 【レンジャー：新田隆一】



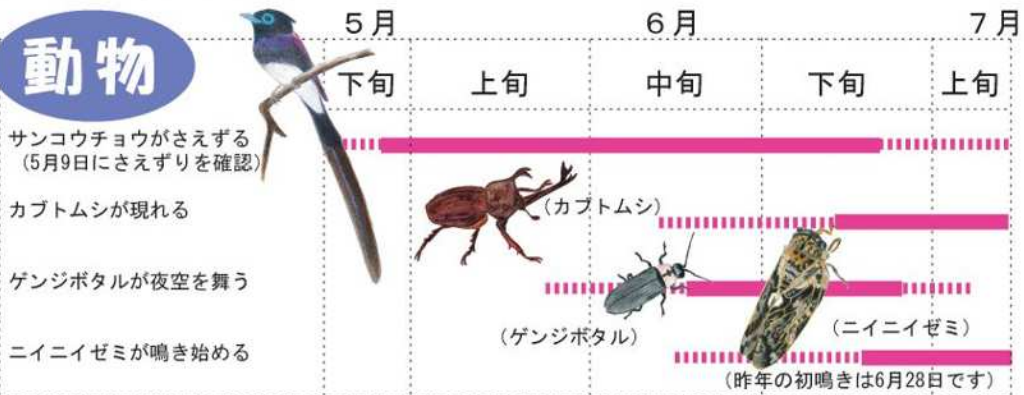
6月の生物ごよみ

植物



新緑の季節を迎え、森は一年で最も賑やか季節を謳歌しています。4月の半ばには、目の覚めるような青い羽根を持つオオルリや、鮮やかな黄色が美しいキビタキが次々と到着し森のあちこちで美しい縄張り宣言が響き渡るようになりました。そして5月10日、ついに待望のサンコウチョウのさえずりも確認しました。「ツキ・ヒ・ホシ・ホイホイホイ」という独特の鳴き声は、本格的な夏の訪れを告げる合図です。主要な夏鳥たちがひと通り揃い、センター周辺の森は今、まさに天然のコンサートホールようです。木々の間を忙しく飛び交う野鳥たちの生命力あふれる姿をぜひ五感で楽しんでみてください。

動物



【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。

森の「あれこれ」



「被害者は…犯人は…」



観察の森でいくつかの鳥の羽根のかたまりを見つけました。メジロなど何種類かの野鳥のもの（左写真1枚目）で、よく観察すると苔や地衣類をクモの糸などであわせた破片も混じっています（2枚目）。

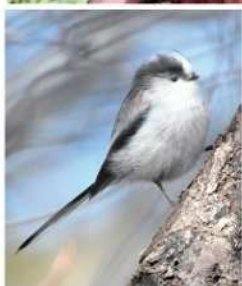
エナガの巣の残骸で間違いありません。被害者はエナガでした。何があったのでしょうか？

周辺をよく観察すると羽根はわりと狭い範囲に落ちています。巣が強風で吹き飛ばされたとも考えられますが、その場合はもっと広い範囲で散乱していると思います。3枚目の写真は以前強風の後に拾ったエナガの巣、丈夫でそのままの形が残っています。

今回は自然の仕業ではなく、何者かが巣を襲った痕跡と推測しました。

エナガの捕食者といえば、ヘビやキツネやテンなどの哺乳類、あるいはワシやタカの仲間が思い浮かびます。しかし巣の壊され方や状況を考えると、犯人はカラスの仲間であるカケスカハシボソガラス、最近頻繁に見かけるようになったハシボソガラスのいずれかが犯人ではとの結論に達しました。

直接犯行現場を見てはいないので、私の個人的な見解です。もしも無実の罪だったらごめんねカラス。



巣を失ってしまったエナガの親鳥たちですが、無事に生き延びて、次の世代へと命をつないでくれることを願うばかりです（左は別なエナガの成鳥と幼鳥）。

【レンジャー：木田秀幸】

いきものの森

① 樹皮の中央にの苔のようなものがあります、苔ではなく苔に擬態した「シラホシコヤガ」という蛾の幼虫です。② 同じく「シラホシコヤガ」の繭です。③ 中央の縦状の苔のようなものは、シラホシコヤガと同じ仲間の「キスジコヤガ」の幼虫です。④ コロコロッと可愛い声で鳴きます「シュレーゲルアオガエル」です、上に乗ってるのがオスで下がメスです。水際にメレンゲ状の卵を産みます。⑤ 春先によくホバリング（空中静止）している「キムネクマバチ」です、オスは顔に三角の黄色い毛が生えてます、メスは真っ黒です。⑥ 黒い縞模様が特徴の「シマヘビ」です、交尾していました。



4月、5月の明るい緑から、一気に濃い緑へと変化し、森全体が力強い生命力を感じられます、生き物たちも非常に活発になってます、また今年も昨年同様厳しい暑さになると予想されますが、暑くなる前に少し森を歩いてみてはいかがでしょうか。

【レンジャー：菅井 潤】

イベント & お知らせ



◆①「夜の森の観察会」

- ・ 6月20日(土) 19:00 ~ 21:00 (6月13日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆②「オトアの森・虫ガールズ観察会(夏編)」

- ・ 6月21日(土) 10:00 ~ 11:30 (6月12日必着)
- 【対象】小学生以上の女性 20人 (中学生以下は保護者と参加) 保護者も女性

◆③「観察の森・生き物調査隊(親子・夏編)」

- ・ 7月4日(土) 10:00 ~ 11:30 (6月26日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆④「夜の森の観察会 ライトラップ観察会」

- ・ 7月18日(土) 19:00 ~ 20:30 (7月11日必着)
- 【対象】小学生以上 20人 (中学生以下は保護者と参加)

◆⑤「自然感さつ専科「きのこウォッチング」

- ・ 7月26日(日) 10:00 ~ 12:00 (7月13日必着)
- 【対象】小学生以上 10人 (中学生以下は保護者と参加)
- 【申込み】Eメールにて 各締切日必着(抽選) 詳細はQRコードで



※ 申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp

自然観察の森の最新情報やイベントへのお申込み、
「森のおくりもの」バックナンバーはQRコードから



6月の休館日

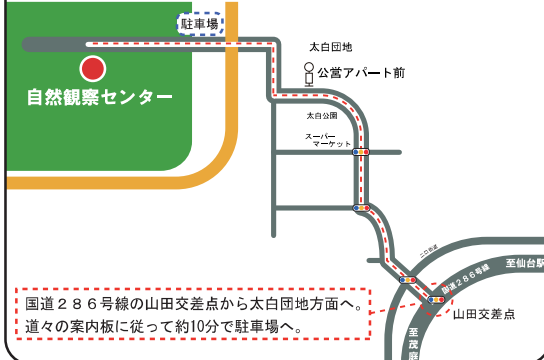
毎週月曜日(1日、8日、15日、22日、29日)

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館

駐車場から徒歩約5分で到着



自家用車の場合



国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- ※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

2026年6月号

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133